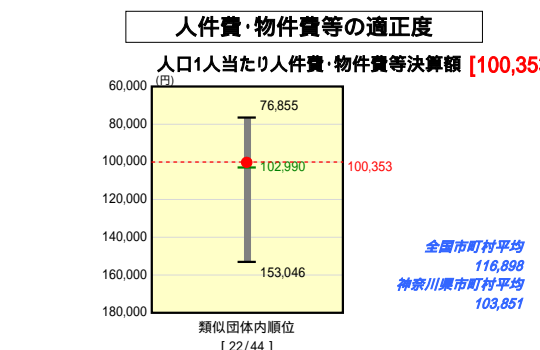
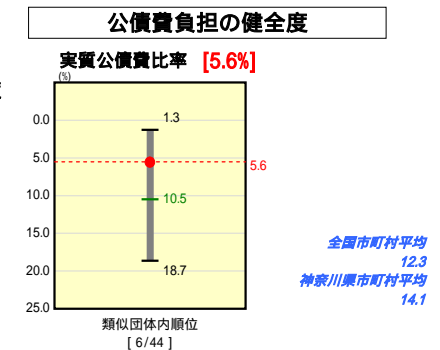
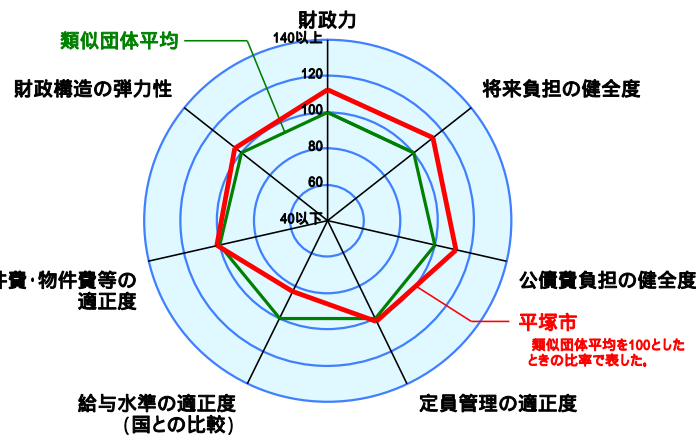
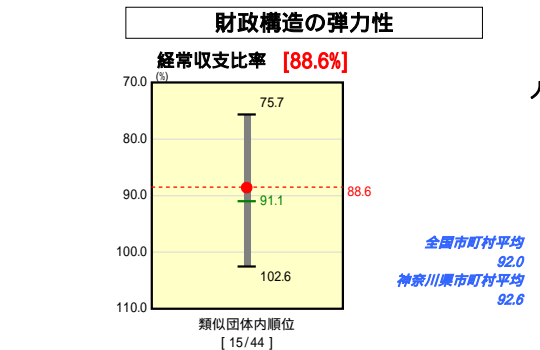
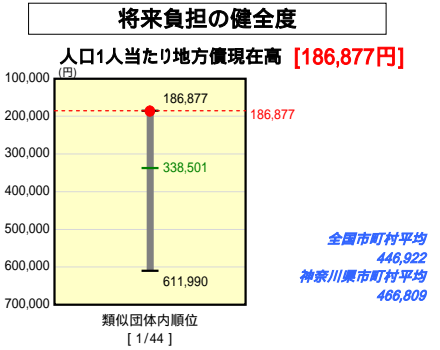
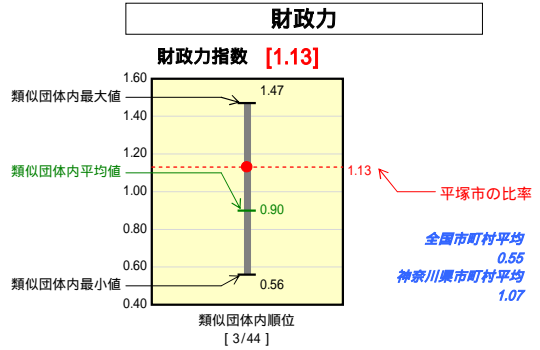


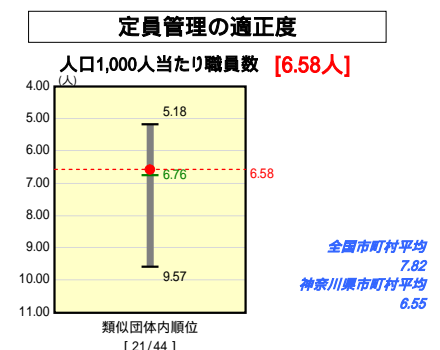
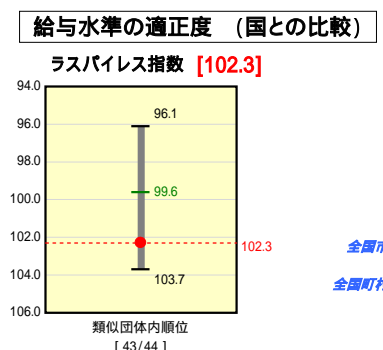
市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

神奈川県 平塚市

人口	257,303	人(H20.3.31現在)
面積	67.83	km ²
歳入総額	77,571,356	千円
歳出総額	75,049,733	千円
実質収支	1,695,107	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレース指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年度地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】ここ6年間は連続した伸びを見せており、前年度より0.01ポイント増加の1.13となっている。今後も、税等徴収率の向上や受益者負担の適正化による歳入確保と事業見直しによる歳出削減を行い、財政の健全化に努める。

【経常収支比率】歳出比較分析表を参照。

【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】集中改革プランによる職員数の削減や旅費日当の廃止などによる経費の削減を進めたことにより類似団体平均を2.637円下回っている。退職手当を除いた人件費は前年度より減少したが、物件費と維持補修費の増が要因となり、決算額が前年度より706円増加した。今後も行財政改革への更なる取組みを推進し、一層の経費の抑制に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】建設事業費の増加による普通債の借入れが増加したものの、財政健全化の観点から臨時財政対策債の借入れを抑制し、また、市債の償還も進んだことから、類似団体内で健全度が1位となっている。今後、庁舎やごみ焼却場など老朽化による施設の建替えなどの大型建設事業が控えており、市債の借入れ増が見込まれるが、将来への負担が急激に増加しないよう引き続き財政の健全化に努める。

【実質公債費比率】過去からの普通債抑制策と算定方法の変更により都市計画税の一部が公債費の特定財源として算入可能とされたことから、前年度比5.3ポイント改善して5.6%となっており、類似団体平均の10.5%を大きく下回っている。今後、施設の建替えなどの大型建設事業が控えているが、引き続き将来への負担が急激に増加しないよう適正な財政運営に努める。

【人口1,000人当たり職員数】第2次定員適正化計画(平成16～21年度)に基づき、事務量に見合った適正な職員配置や採用の抑制に努めており、類似団体平均を0.18人と若干下回っている。今後も引き続き、計画に掲げる5.3%(130人)削減の達成を目指す。

【ラスパイレース指数】給与については、人事院勧告に準じた改定により適正化に努めているが、本市の給与構造改革実施が平成18年10月だったことから、同年4月に実施した国の給与水準と格差が生じており、類似団体平均を上回っている。引き続きより一層の縮減努力を行う。